

# GREEN ニュース

行動する環境アドバイザーの会報

第104号 2026

環境アドバイザー連絡協議会

第13期代表 井上金治  
令和8年 4月 発行  
創刊平成5年7月16日

## ネイチャーポジティブ宣言

2030年までに「ネイチャーポジティブ(自然再興)」を実現するためには、生物多様性保全活動に加えてゼロカーボンやサーキュラーエコノミーに対する活動を連携させることが大切です。

私たち「群馬県環境アドバイザー連絡協議会」は、一つひとつの個性豊かな市民活動の輪をつなぎ、自然資源を守り活かす活動を広げていくことを宣言します。

宣言1 自然環境部会を通じて、ネイチャーポジティブについて理解を深めるとともに、部会員それぞれの活動をおとして県民への普及啓もうを行います

宣言2 温暖化・エネルギー部会の活動を通じて、省エネ・CO2削減に取り組み、地球温暖化防止による環境保全に努めます

宣言3 地域のごみ拾い(特にプラスチック等の自然にかえらないものを中心に)活動を通して、環境保全と生物多様性が保たれる持続可能な社会を目指します

宣言4 広報委員会を通じて、環境活動を推進しその魅力を広く伝えます



群馬県環境アドバイザー連絡協議会  
代表 井上金治

©群馬県ぐんまちゃん01097-01

“春のうららの～♪” 滝廉太郎先生の「花」は、明治33年(1900年)に発表されました。当時の前橋の4月の平均気温は11.1℃、2025年は14.8℃(前橋气象台)。2030年まであと4年足らず、私たちができることは“今”やりましょう!

広報委員会 酒井義明

## 【目次】

- P2 「ECOぐんま」がリニューアルしました!
- P3 降雪について  
バレンタインデーにチョコからSDGsを学んだ
- P4 時間旅行  
使用済み太陽光パネルはどこへ行く??
- P5 榊中之条パワー見学会報告
- P6 「カップピアエコクラブ」
- P7 芝から花へ、花から人へ、人からまた公園へ
- P8 『水辺のごみ見つけ!』に参加  
編集後記

## 群馬県環境アドバイザーの登録状況 (2026年4月25日現在)

第13期(登録期間:2024年4月1日~2027年3月31日)の登録者数は、更新者、新規登録者を含め、合計389名です。自然環境部会213名、温暖化・エネルギー部会159名、ごみ部会127名、広報委員会55名が登録し活動されています。

ロゴマーク  
公開しました!



@ECO\_gunma



群馬県環境アドバイザー  
連絡協議会

# 群馬県環境情報サイト「ECO ぐんま」がリニューアルしました！

群馬県 環境森林部 環境政策課 環境政策係

皆様にご活用していただいております「ECO ぐんま」のホームページが、より見やすく多くの情報をお届けしたいとリニューアルして新しく生まれ変わりました。

↓新しいホームページです^^)

<https://ecogunma.pref.gunma.jp/>



今まで  
ありがとう  
ございました！



よろしく  
お願いします



環境アドバイザー

環境アドバイザー登録者へ定例文情報

群馬県環境アドバイザーのページ

環境アドバイザー専門部会・委員会開催情報

環境アドバイザー会報グリーンニュース発行

定例文・専門部会委員会情報・グリーンニュース等のページへリンクしています。

ほかにも環境に関する興味深いページがたくさんありますので是非ご覧ください。

また、Xの公式アカウント

[https://twitter.com/ECO\\_gunma/](https://twitter.com/ECO_gunma/)

こちらでは、旬の話題が随時投稿されています。地域での環境イベントのご案内や、知ってお得な情報が満載。もちろん皆さんからの情報も掲載いたします。イベント開催案内や「こんな活動しました〜！」なんて活動ネタがございましたら写真（データ）を添えて環境サポートセンターまでご連絡ください。たくさん情報をいただけると嬉しいです



## 降雪について

副代表（吾妻地区・草津町）反町 忠雄

私が住む場所は、標高約1100mです。住宅地の端にあり山の中といても間違えではありません。冬には雪が降ります。毎年同じ量が降るかというところが違います。雪の多い年と少ない年があります。

令和7年度の冬は雪が少ない年でした。なぜ少ないのか？低気圧の進路と寒気団の位置。長野県北部、新潟県、水上片品方面が大雪でも、風の向きにより吾妻地域は雪が降らないのです。（県境の山には雪が降っています）

私が目視で記録している降雪量は、令和7年度が約160cm、6年度が約230cm、5年度が約250cmです。12月の降雪が遅くなり、3月の気温上昇は早く、雪が早く溶けてしまいます。日常生活は楽になりますが、スキー場の営業等に影響が出ます。スキー場などの観光施設は環境の変化に適応するのは大変です。



## バレンタインデーにチョコからSDGsを学んだ

ごみ部会長（高崎市）奈賀 由香子

ごみ部会第11回定例会を2月14日（土）に、共愛学園前橋国際大学短期大学の調理実習室で行いました。参加者は8名、うち男性も3名。初めての方や中学生も参加。講師はエコ・クッキングの専門家でもある木村教授でバレンタインデーだけどチョコを使わない米粉のカップケーキを作りました。まずは材料の説明で、群馬県産の米粉、沖縄の黒糖、豆乳ヨーグルト、米油について、環境負荷の低いものを選んだこと、後片付け用のぼろ布や不要な紙で作ったごみ入れについて解説いただいた後、全員で調理。調理自体は難しくなく、皆さん大変お上手で手際よくできました。

オーブンで焼いている間に、先生からチョコレートについて、その原料カカオにまつわるお話を聞きました。

紹介された映像には、カカオをめぐる児童労働の現状が。ガーナで細いカカオの木に登る子供たちは、自分たちが取っているものが何になるか知りません。チョコレートを食べたことがないのです。学校にも行けずずっと農園で働いています。私たちも聞いたことがある話ですが、遠い国の話、貧しい国の話、かわいそうに・・・で終わっていないでしょうか。自分に何が出来るかを考えても、フェアトレードのチョコを買うことくらい？問題があまりに大きすぎるのです。私はちょうど前日に、ガーナには世界中から寄付という名目で送られてくる古着がものすごい量で、結局海辺に放置、捨てられているという映画を観たばかりだったので、私たちの「買う（消費する）」行動が引き起こしている問題なのだと思います。それは正当な値段なのか？幸いなことに私たちは選べるのです。買い物は何を選ぶかの意思表示です。焼きあがったケーキを食べながら、どんなことからでもSDGsを学べるのだと実感しました。





## 時間旅行

自然部会（伊勢崎）高橋 陽子



前橋中心市街地商店街の喫茶店にてカフェオレを頂き、広瀬川河畔を歩いて行くと交水堰の傍らに詩集石碑があった。『時間さへ 擦り切れて霞んでしまふほどの遙かな彼方に 緑金の葉をつけた森があつて そのほぼ中央のひときは大きな槐の木の下に ぼくたちの「酒ほがひ」』（詩集「退い宴楽」より）

今、我々が考えてゆくべきこと、未来の森について、次世代にバトンを渡すために、多様性のある豊かな森林環境と森に暮らす動物たちが安心して生きてゆける様な場を創造して行かなければならない。細分化された森林をつながりを持った環境として、水を貯え、すべての生きるものを潤す川となる。悠久の時を経て、皆が集い、ともに汗をかき、そこで宴を交わす姿を創造し実効してなければならぬ。時間旅行の旅に、我々は出発します。



## 使用済み太陽光パネルはどこへ行く??

温暖化・エネルギー部会（前橋市）深澤 健

温暖化、エネルギー問題を考えるうえで自然エネルギーの利用、特に太陽光発電というのは非常に有効な手段です。既に一般的に浸透しているとは言え（私の自宅の屋根にも付いています）、使用済み太陽光パネルはどうなるのか?という心配は常に付きまといまいます。現状では、埋立てによる処分がほとんど。しかし、2040年頃をピークとするパネルの大量排出が予測されており、今後そのすべてを埋立て処分する事は処分場の残存面積的に不可能だと言われています。そこで注目されているのが太陽光パネルのリサイクルです。



3月5日に吉岡町にある㈱電源群馬 PV リサイクルファクトリー様の太陽光パネルリサイクル工場を見学させて頂きました。こちらでは解体業者等から持ち込まれたパネルを最新の特殊な機械により、まず発電モジュール、アルミフレーム、パネルに分別していきます。さらにパネルは表面のカバーガラスを粒状の金属を噴射することでバックシートと剥離させ、さらにバックシートからは銀を抽出したうえで、残ったものが溶解され埋立て処分となります。モジュール・アルミ・ガラス・銀と、パネルのほとんどが再利用可能となるわけです。加えて、単純に

産廃として埋立て処分する費用と同施設に持ち込みリサイクルする費用とでは、依頼主側の負担はほとんど変わらないとのことでした。

前述のことを鑑みると、パネルのリサイクルは今後最も現実的な選択肢となりそうですね。リサイクル用途はまだ限定的であるようですが、今後の更なる展開を期待したいですし、太陽光所有者がリサイクルを当たり前に出選できる世の中にしていくことが地球環境への大きな貢献となります。そんな期待と希望を感じた1日でした。PV リサイクルファクトリーの皆さま、貴重なお時間をありがとうございました。



## (株)中之条パワー見学会報告

温暖化・エネルギー部会（渋川市）渡部 芳美

○日時：2026年2月25日(水)午後1時から3時30分

○場所：(株)中之条パワー（吾妻郡中之条町中之条1828）および太陽光発電現場、小水力発電現場見学

○参加メンバー：当部会員等8名

○先方説明者：山本政雄様（(株)中之条パワー代表取締役）、本多様（中之条町企画課）

### 1) 「再生可能エネルギーの地産地消と新電力」の説明（(株)中之条パワー本社にて）

- ・中之条町は2013年に「再生可能エネルギーのまち中之条」を宣言し、地域新電力による地産地消と地域の活性化を重点に活動を始めた。
- ・(株)中之条パワーは2015年に一般財団法人中之条電力の全額出資により設立し、電力自由化に対応した一般家庭を含む電力サービス事業を行っている。
- ・町主導の太陽光発電として、最大出力2MW×3か所=6MW

### 2) 中之条町美野原小水力発電事業の説明（(株)中之条パワー本社にて）

- ・中之条ガーデン付近の美野原台地を流れる幹線水路の高低差を利用し、農業用水の範囲内で水力発電を行い、農業振興を図る目的。
- ・発電量は最大135KWだが、時期により取水量に変動があるため、発電量も変化する。(31~135KW)

### 3) 沢渡温泉第一太陽光発電所見学・・・あいにくの雨天。(写真①、②参照)

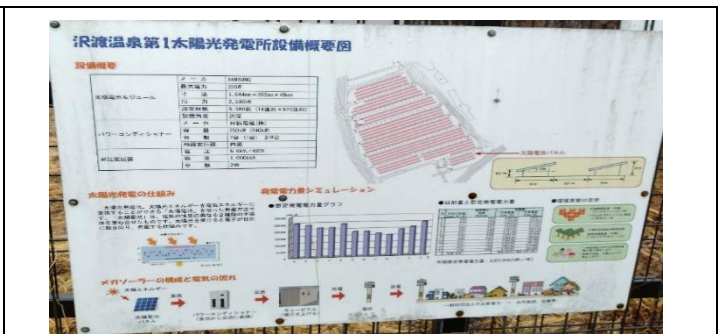
### 4) 美野原小水力発電所（写真③、④参照）

### 5) 見学の感想：

群馬県は高低差のある河川と広大な山地を所有している。これらの資源を組合わせて利用し、電力面での地産地消を推進している中之条町の取組みに熱意を感じるとともに、同様の活動が県内で広範囲に活用されることを願います。



写真① 設置してあるソーラーパネル



写真② 太陽光発電設備概要



写真③ 小水力発電・発電量



写真④ 小水力発電設備

## 「カップピアエコクラブ」

～緑の県民基金・森林環境教育活動・9年目～

カップピアエコクラブ担当（高崎地区会）西野 仁美

カップピアエコクラブが発足して9年になる。高崎観音山公園を拠点に自然観察会や森林整備活動をしている。コロナ流行時にはLINE グループを立ち上げて情報交流していた。観音山公園は、「カップピア」という遊園地の跡地を公園として整備したもので、昭和27年の高崎線電化を記念して開催された「新日本高崎子ども博覧会」の会場だった。歴史ある場所で活動できる意義を感じる。

令和7年12月に講演会を開催した。きっかけは、会員の野上璃恵さんが高校生になり、「里山保全と循環型社会の両立」という提案を掲げて、夏休みに単独ペルーに留学をしたことだ。講演会では、「トビタテ！留学 JAPAN」（文部科学省が民間企業と協働して運営する高校生の留学促進キャンペーン）に応募してペルーに単独渡航。ニューヨークでの飛行機乗り換えトラブルや白タクに引っかかった経験、ペルーの野生動物保護センターに滞在したほか、様々な国のメンバーに対してゴミ問題に関するアンケートを実施し、認識の違いを考察した。



エコクラブでの活動は、里山の自然に触れることで、生き物の世界の不思議さに気づき、生態系、生物多様性という概念が身につくことを目指している。クワガタの絵で入賞したり、自由研究につながったりしている。



ホトケドジョウを調査した会員は水産系の大学に進学した。講演会では指導者の久保典也さんが「身近な外来種と問題」について話した。観察会でも、クビアカツヤカミキリはじめ、ムネアカハラビロカマキリ、ホソオチョウ、アカボシゴマダラ、チュウゴクアミガサハゴロモ、シナスカエビなど発見し、子どもたちの観察眼も侮れないものに成長している。オオキンケイギクやナガミヒナゲシの啓発ポスターを作ってくれたメンバーもいる。夜間のライトトラップやペットボトルトラップの仕掛け、標本作り、ミニ門松作り、リース作り、食べられるもの探しなど、里山の自然の豊かさが感じられる活動を継続していきたい。

### 部会からのお知らせ 1/2

#### 自然環境部会

5月9日（土）午前

9:30～11:30 M サポ会議室

- ・クビアカツヤカミキリ対策  
ペットボトルトラップの作成  
持参：ペットボトル大・中各2、  
カッターナイフ
- ・議案 幹事会等報告  
今後の活動について
- ・森林の植林計画について（仮題）

#### 温暖化・エネルギー部会

5月10日（日）午後

13:00～15:00 M サポ会議室

- ・部会員の活動発表（遠藤功さん）  
廃ケイ素からの水素生成とその利用  
シリコンや半導体工業から得られる廃ケイ素を利用して、次世代燃料とされている水素の生成とそれを利用した小規模発電装置への応用
- ・カードゲームなど

## 芝から花へ、花から人へ、人からまた公園へ

(前橋市) 船津 美美

敷島公園では、自然と人のつながりがやさしく巡る「循環」を大切にしたい取り組みを行っています。公園の芝刈りで出た芝の刈りかすは、育苗を行う企業へ提供し、堆肥として再利用していただいています。その堆肥で育てられた花の苗を公園にいただき、ボランティアの皆さんと一緒に花壇へ植え、季節の花を咲かせています。咲いた花は押し花にしてワークショップの材料にしたり、小さな小物に仕立ててイベントのお土産として持ち帰っていただくこともあります。こうした活動をきっかけに、公園を訪れた方がボランティア活動に興味を持ち、新しいつながりが生まれることもあります。



花壇の草花で作った押し花の葉

また、公園の花壇づくりでは、群馬県立勢多農林高校の生徒の皆さんにも協力していただきました。生徒の皆さんが敷島公園の花壇をテーマに調査・検討を行い、二つの案を提案してくれました。その案をもとに、公園スタッフや関係者によるコンペを行い選ばれたのが、現在の花壇です。この花壇は、森林の中で植物が時間とともに変化していく「遷移」から着想を得た「変遷する棚田」をコンセプトにデザインされています。学校林で採れた丸太を使い棚田状の花壇をつくり、自然素材の丸太が時間とともに朽ちて土へと還り、新たな命を育む土台となる様子も花壇の一部として捉えています。この花壇には「めぐりの庭」という名前を付けました。自然の恵みが土へと還り、また新しい命を育み、人と自然の思いが巡り続けていく場所になってほしいという願いを込めています。



県立勢多農林高校の学生による花壇づくり

小さな取り組みのつながりですが、その一つひとつが誰かの心を温め、自然を大切にする気持ちへとつながっていくのではないかと感じています。

“芝から花へ、花から人へ、人からまた公園へ”

公園で生まれる小さな循環が、人と自然をつなぎ、次の世代へとつながっていくことを願いながら、これからも環境を大切にしたい公園づくりを続けていきたいと思っています。

## 部会からのお知らせ 2/2

### ごみ部会

6月13日(土) 午前

10:00~12:00 Mサポ会議室

・海ごみゲーム(予定)

※各部会への参加は、事前登録不要!部会員でなくてもOK! ちょっと時間が取れたから、これ面白そうだから、など、お気軽にご参加ください。

### Mサポって?

前橋市の運営する前橋市市民活動支援センターの通称です。

【場所】

群馬県前橋市本町二丁目12番1号  
ミヤケン元気21(前橋プラザ元気21)  
3階

詳しくは、

<http://www.maebashi-shiminkatsudo.jp/>



## 『水辺のごみ見つけ！』に参加

市立太田高校（太田市）岡部 優気



私たちは、11月29日に全国川ごみネットワーク主催の『水辺のごみ見つけ！』（全国水辺のごみ調査）に参加し石田川上流でゴミ拾いと調査を行いました。約2時間ほど活動し、様々なゴミを拾いました。

石田川の源流である矢太神水源から南下し、県道2号線を少し越えた辺りまでの区間に落ちていたゴミを拾いましたが、特に橋の下にはゴミが多かった印象です。また、人通りが多くなると、それに比例して捨てられたゴミの量も種類も増えると感じました。ゴミの種類ですが、ペットボトルや空き缶が一番目立ちました。酷いなど感じたのは、中にゴミが入っている袋が丸々捨てられていたことです。他に例外的なものでは、看板のような物も捨てられていました。

およそ1kmという短い区間での活動ではありましたが、最終的に45リットルの燃えるゴミ用の袋2枚分、燃えないゴミ用の袋1枚分という想像以上のゴミを回収することが出来ました。



この活動を通して、改めて深刻な環境問題の氷山の一角を知ることが出来たように思います。ゴミ問題の背景には、1人1人の環境に対する関心の薄さがあると思いました。だからこそ、私は新田環境みらいの会の一員として、今後も様々な活動に積極的に取り組み、活動していることやその成果をなるべく多くの人たちに知ってもらうことで、身近な環境から、自分たちに出来る少しずつの取り組みを広げていき、果ては環境問題に対して関心を持ってもらえたらと思っています。

・・・・・・編集後記・・・・・・

広報委員 酒井 義明

新しい年度が始まりました。今年度もGN（グリーンニュース）をよろしくお願ひいたします。

さて、先日（2026年4月17日）、日最高気温40℃以上の日の名称について、気象庁ホームページで実施したアンケート結果や有識者の意見を踏まえて「酷暑日」と決定されました。2007年には、日最高気温が35℃以上になった日のことを「猛暑日」と言うようになっていました。これで、日最高気温25℃以上を「夏日」、30℃以上を「真夏日」、35℃以上を「猛暑日」、40℃以上を「酷暑日」となりました。真夏日が涼しく感じられますね。

名前が付けられる過程は、「その人が、そのものが、その経験が、その現象が（中身）」あって、そのうえで「名前」がつけられます。名前があることで、その他諸々から明確に区分・識別することができます。区別・識別が必要になったということは、新たな気象フェーズに入ったことを意味するのではないのでしょうか？

今年もすでに4月から「真夏日」が観測されています。アドバイザー皆さんは、屋外での活動も多いと思いますのでくれぐれも体調にはご配慮いただき、安全に活動を行っていただけますようお願い申し上げます。

### GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース（GN）は年4回発行します。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係 環境サポートセンター 角張

〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2827 FAX 027-223-0154 E-mail: kakubari-toshiaki@pref.gunma.lg.jp